

人見絹枝日記の研究

—1924年の人見—

A Study on Kinue Hitomi's Diary

—Hitomi in 1924—

三 澤 光 男

Mitsuo MISAWA

Abstract

Kinue Hitomi (1907-31), a great athlete and the first Japanese female medalist in the Olympic Games (1928), born at Okayama, spent her days of girlhood there. In spring 1924, she graduated Okayama Prefectural Girls' High School and entered Nikaido Physical Training College in Tokyo.

The purpose of this study is to clarify Hitomi's activities and thoughts in 1924 by investigating the diary which she kept in the year (Jan. 1.~Nov. 16). It has been left alone in her old home at Okayama for 75 years after her death.

At Okayama she had been not only a champion tennis player of the school, but also an amateur of the Japanese literature, occasionally composing some tanka (Japanese poems).

In Tokyo how did she spend her new college life? When did she make up her mind not to play tennis, but to be a track and field athlete. Did she compose any tanka?

What was she impressed with the personality of the schoolmaster, Tokuyo Nikaido?

We can summarize as follows:

1. Hitomi played tennis on June 16, thereafter did not. Participating in All Japan Championship Meet at Jingu Stadium on Nov. 6th and 7th, she began to make her way to a world-rank athlete.
2. She composed 14 tanka in this year.
3. She had many intimate schoolmates, one of whom she loved dearly.
4. For Tokuyo Nikaido she had great respect and thanks, which can be seen in these papers.

keywords : College life, Tanka, All Japan Championship Meet, Tokuyo Nikaido

I. はじめに

2005年6月16日に人見の生家から、絹枝の日記（大正13年1月1日～11月16日）が発見された。大正十三年（1924）は絹枝17才で、岡山県立岡山高女から二階堂体操塾へ進学した年にあたる。本書は二階堂体操塾の創設期に、塾生（第3期生）によって書かれた数少ない史料になると考える。絹枝の代表作『スパイクの跡』、『ゴールに入る』の記述法からみても絹枝は生涯日記を書き続けていたものと推測してきたが、日記の発見は本書が初めてである。

なお、この日記は「『スパイクの跡』—1929年刊・口絵写真15葉8頁・序文5頁・本文406頁構成— 1. 学校時代 2. 第一回欧州遠征 3. 練習時代 4. 第二回欧州遠征から」に書かれた内容のうち、「1. 学校時

日本女子体育大学（名誉教授）

代 (10)卒業後の方針について (11)二階堂女塾への入塾 (12)祖母の死 (13)初めての世界記録を破る」が書かれた時代に該当するものである。

II. 研究の目的

人見絹枝が後世に残した業績を筆者は1. 競技会での活躍 2. 活発な執筆活動 3. 後継者の育成と考えている。本研究はこの視点に立ち、絹枝の大正13年（1924）におけるスポーツ活動（テニス・陸上競技・その他）執筆活動（短歌・その他）を明らかにし、これ迄の発表に補足し、さらに絹枝の人格形成に大きな影響を与えたと思われる思春期の家庭生活、学校生活（授業・学友関係など）を調べ、考察しようとしたものである。

III. 研究の方法

人見絹枝日記を資料に記載内容を月・日順に整理し、日記は著者以外に全公開されていないこと、また発表紙面の制限等から抜粋する。さらに年間を通し、スポーツ活動、執筆活動、家庭生活、学校生活別に分類しまとめ、文中の誤字は原文を生かすことにした。

なお日記は市販の積善館発行『文芸日記・大正十三年』菊判(152mm×227mm)縦罫線紙を使用している。1日が1頁(12行)となっており、月末に「補遺の頁」を1頁付している。各頁の欄外に1日1首「俊成」「柴舟」「晶子」「白秋」等の短歌(和歌)が記されているのが特徴的である。また本書の最終頁には「購書記録」の1頁が付されている。

IV. 研究の結果

日記は「汝の心の泉をば、ゆくりなく表せと、彼は小ごえにささやきつ、去りにしのちに止め、彼は心をみがけとて、我にあたえしこの物よ 一九二四・一・一」で始まり、裏表紙にはTokyo fukaebabaragun matubara Nikaido guku K.Hitomiと横書きし、また縦書きで東京府下荏原郡松澤松原 二階堂体操女塾人見絹枝と記している。

以下は日記を抜粋し、1. 岡山で家族と生活を共にした時代 2. 東京に居を変え、寮生であった時代とに2区分し進めることとした。先に原文をのせ、各月ごとに内容をまとめてみた。

1. 岡山高女時代

(1) 1月

1) 日記

家内の平和な生活をほんとに嬉しく思う。兎島の叔母来る(3日)、亥久ちゃんとほんとに姉妹だったら、どんなにうれしいだろう。初業式を終えて帰ると、ほんとにうれしかった。新聞に和歌が出ているので驚いた。先生に叱られなければと思って心配した(8日)、帰るとすぐ母校へ行ってテニスをする。女が男の中に入っているのは昔の者からみたら変に思えるかも知れないが、私はあくまでそんな意地のよわい女に生れていないのだ(12日)、「人肉の市」^①それは私に大いなる奇待をあたえたにかかわらず、そう迄のものでもなかつ

た。女がああ迄弱々しく生れた事を私はいかになげいた事だろう(13日)、朝の内に「出家と其の弟子」^②を読んでしまった。そうヒントを与えてくれなかった。(20日)、大祝日^③だ。万才三唱、写真を取り祝餅をいただいて帰る。亥久ちゃんと一緒に、あの吹雪の内で一才の風もあてまいと一心にかばってやった(26日)。

2) 1月のまとめ

「1月日記の補遺」頁に思春期の心の動揺が書かれている。恋は美しい純なるものである。愛する姉、妹に対する恋だ。自分をよくよく練磨して愛する君の姉とも妹ともならん事を祈って止まないとし、恋について1頁(全行)にわたり書いている。絹枝に妹はなく、亥久ちゃんのことと考える。

①スポーツ活動に関する記事 テニスは12日・21日・30日にある。中に21日は授業時のテニスであり、亥久ちゃんの声にミスをやったのはすこぶる面白かったとある。

②文筆活動に関係する記事 短歌会・19日 草枯れて 広く忘たるこの原に牛のさけびの淋しくひびく(1月日記の補遺)

③読書 人肉の市(13日)、出家と其の弟子(20日)

④授業について書いた日が多く(10日・11日・12日・14日・16日・17日・18日・22日・24日・27日・28日・29日・30日)17日の「今日の課外にS教師のあの言葉…あゝ迄自分をよくも馬鹿にしたもんだ。汚らしい言葉からうけたうらみはらさで、あるべき忘れるな君!! 君の生存ありときく内はきつときつと出世致すべし、神よ!! 我が天性を發揮する機会を与え給え」が目につく。

(2) 2月

1) 日記

今日の一校時が現代文、とうとういやになってしまった。無味乾燥した味もなければ香りもなく…。校長は先生の教授法を少しは見るべきではないか、校長までおこらず(1日)、餅つき、朝少しの言い違いから父と母と自分とけんかをする。しかし父母の云う事がちがう。頭が固いのだと思えばそれでよい(3日)、亥久ちゃんが学校を休む。神よ願わくば愛する妹に病魔をさけさして…(5日)、最後の短歌会、平松さんによってうちこわされてしまった(9日)、テニス今日先生達とする。

いつしても味は変わらないものだ (16日)。

2) 2月のまとめ

- ①スポーツ活動に関する記事 テニス・16日
- ②文筆活動に関係した日 短歌会・9日 いかにせん恋する人の心にもわれ別れ行く人の心よ (2月日記の補遺)
- ③授業について書いた日が多く (1日・2日・4日・8日・12日・13日・14日・15日・19日・20日・21日・22日・23日・26日・27日), 現代文が嫌になった (1日), 射撃があった (7日・10日) が特筆できる。
- ④亥久ちゃんについて書いた日が多い (2日・3日・5日・6日・10日・11日・17日・18日・24日・25日・27日・29日)。
- ⑤その他 11日に文芸会が講堂で行われた後に卒業写真を撮り, 最後のクラス会が行われた。6日と7日に大変に胃の調子が悪いとある。健康面への不安をのぞかせる。

(3) 3月

1) 日記

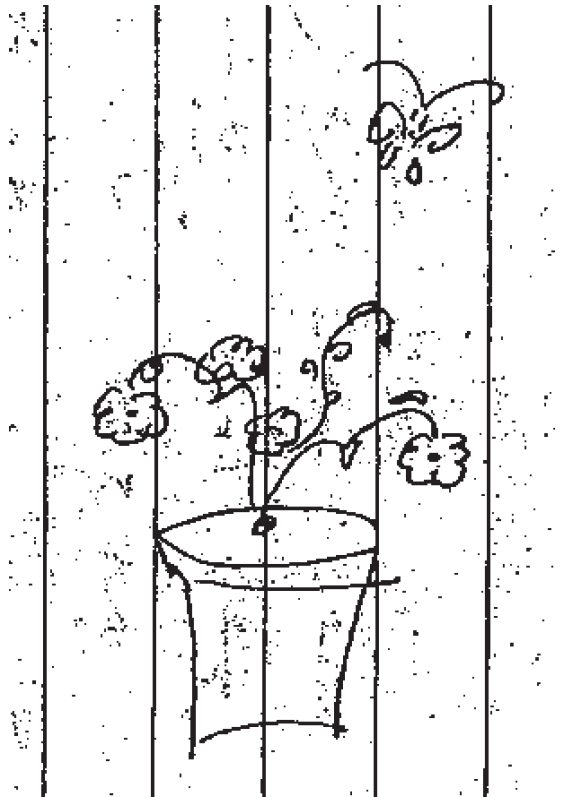
もう土曜が来た。去りゆく日の一日一日と近づいて私の心は空虚そして淋しい。愛する人も私の心は一日一日と深められ、そして別れることが淋しくなる許し、あゝ別れの淋しさよ。二階堂の許へ願書を出す。ねがわくば我上に神よ!! 幸あらんことをいのる(1日), 父外へ出て行く。母少し悪し。祖母床につく。夜は母に少し意見する。どうか二人の間が和合する真に和合する日を待つて止まないのだ(2日), お昼に二階堂から許可書来る。天にも上る心地して、今迄胸に持った不安の雲をのけてひるねをする。友訪ね来る。夕は早く床につきうれしくてねむれなかった(9日), 同窓会館に新聞記者来りて訪う。いかなる私も少々胸が高なった。思う存分話してやりたかったが少し口重に云って止めた。写真も取って帰る(15日), もう亥久ちゃんも来て待っていてくれた。12時前西大寺につく…藪の中へ入って二人話をする。もうこんなことをする日はいつあるのだろうか。いつ迄もいつ迄も居りたい二人でこの中へねて起きたいと思った。

帰りについたのは三時前汽車にのりて帰る (16日), 通知をもらって帰る。こんなに下ってどうするかと心配した。帰るとすぐに父に叱られる。家

の中に又一大変乱を起さんとす。大いに悲観して一夜なきあかす(22日), 卒業式幸いに父も今日は機嫌をなおして学校に来てくれた(23日), 二階堂および亥久ちゃんより手紙来る。いよいよ私は二階堂先生の生徒となったのだ。あゝうれしい (25日), お昼頃より亥久ちゃんを迎えに行く3時前家に帰る。亥久ちゃんがとうとう一夜泊まる事を承知してくれた。一夜中話をしてみた(26日), お天気が悪い。仕方なく十時頃迄家に居る。天気復活す。学校へ行ってテニスをして帰る (30日)。

2) 3月のまとめ

- ①スポーツ活動に関する記事 テニス・30日
- ②学校行事が多い月であった。学期試験(11日~14日), 音楽会 (21日), 卒業式・謝恩会 (23日)
- ③亥久ちゃんについて書かれた日が多い (7日・10日・12日・13日・14日・16日・17日・25日・26日・27日・28日)。
- ④その他 父母・祖母・兄の動静を描写 (2日), 二階



「人見絹枝・3月4日の絵」

堂へ願書提出時の不安な気持ち、入学許可書が届いた時の嬉しさ（1日・9日）が強く書かれている。

- ⑤その他 この日記に絹枝が画いたスケッチ風の絵が2箇所にある。これは3月4日と5日である。小鉢に植えられた草花1本と上に舞う孤蝶（4日）は、明らかに当時の『少女画報』に連載された吉屋信子「花物語」の表紙の絵・アールヌーボー風の鈴蘭を模したものと思われる。

2. 二階堂体操塾時代

(4) 4月

1) 日記

二時前床屋より帰ると亥久ちゃんが来てくれた。ほんとにほんとにうれしかった。すぐ海に行く。帰って久しく話す(4日)、十時頃から姉と亥久ちゃんと三人町へ買物に行く。三人写真を取る(6日)、お昼頃祖母と二人でおほか参りをする(12日)、旅立ち(13日)、午前九時無事入塾 感想：室は大勢にてにぎやかだ、先生の気持よい男らしい事、多くの方がそんなに気がねする方なき事、二時迄一休みして四時頃からお湯に行く(14日)、今城さん⁽⁴⁾と二人で市へ行く。日比谷公園にも行った。初めて知らなかったオシ鳥もみた。孔雀の羽をひろげたのも初めてだ。それから三越へ行く。買物すまして明治神宮へ参拝す(15日)、お湯から帰ってから身体検査をする(17日)、午前早く授業ヲスマシテ野球ヲスル、ボールヲ一個失ツタ。ドウシテモコレヲ返サナケレバナラス。午後ハ林先生⁽⁶⁾ノ体育論ガアル。先生ノ言葉ヲ笑ッテ一人タタカレタ(21日)、朝毎日鏡ヲ見ル度毎ニ丈夫ナ顔色ト変ッテ行クウレシサホントニ鉄色ニ変ル私ノ顔大イニ悟スルコトアランヲ望ンデヤマナイ(22日)、林先生の講義が一時間半あってそれがすむとすぐ遊戯を二つおすえていただいた。ああ私はこの日を忘れ得ぬ日だ。大石様！！私は大石様とおよびするより外に云う事は出来ない(25日)、今日は待ちに待った日曜日だ。午前中に大石様！！親類にお行になって淋しかった。午後洗濯をしていると、谷口さんと高淵さんとが来て下さった。ほんとにうれしかった。雑木林をぬけ出して吉田公園⁽⁶⁾に行く、五時前急に帰らる淋しくなる(27日)、今日は授業がなかった。しかしその更りに訓話があった。九時より始めて十二時頃迄

つづく。先生はほんとに口もうまいがその頭の明瞭なるには驚いた(29日)。

2) 4月のまとめ

2日、3日の日記が欠落している。

4月13日に岡山を離れ、14日二階堂体操塾へ入学した絹枝の感想は、「四月日記の補遺」の頁に明らかである。「上旬はほんとに楽しいやら淋しいやらの生活をする。亥久ちゃんの事もほんとに思い出深いものだ。中旬においてはもうずい分変わった生活をする。国より送りし金の費い方もずいぶん考えた。父母の事もずいぶん考えた。それから私一身については今城さんより大石さんにうつりしことずい分苦しいこともあった。私は多情だ悲観した。この声はほんとに真実だ。塾の様子もずい分わかってきた。塾生活はほんとに苦しいものだった。あゝほんとに苦しい日がつづく。早く帰りたい。ほんとに帰りたい。しかし国からは度々手紙をよこしてくれるので、わずかはなぐさめられる。姉もずい分私にはうれしい。あゝ幸あれよ。神ねがわくわ！！」と書いている。

①スポーツ活動に関する記事 野球・21日

②授業に関する記事では、林先生の固有名詞が多く出てくる(21日・25日・28日・30日)。

③寮生活について 入浴はよく行った(14日・15日・17日・26日・29日)人見の友情は亥久ちゃんから大石さんへ移る(25日)、東京の文化に触れ開眼の思いをする(15日)。

④塾長に対する感想(14日・21日・29日)、塾長の方言、訛りを笑いながら、自分も同化され使用していく(21日・25日・28日)。なお4月18日より22日までは片仮名での記入となっている。

(5) 5月

1) 日記

今日の午後は遊戯を四つもおすえていただいた。夕食後外へ出る。黙学中は大石様と二人月を眺めつつ淋しい物語をする(1日)午後いよいよテニス部が構成されて、ほんとにうれしかった。私は大いに悟る所がある。(2日)、午後郵便局へ行って帰りに雑木林に入り詩集をよむ。夕食前吉田園へ行っての帰りにウドンヤへ行き湯をつかって帰る。夜大石様の所へ泊まりに行く(3日)、午後から活動⁽⁷⁾へ四人で行く六時前帰る(4日)、夜は塾長の許しを得て医者へ行く(6日)、九時前

塾を出てお茶の水へ行く。ニコライの鐘も聞いた。浅草へ行って昼食をして活動へ行きかけたが、やめて代々木へ帰る(11日)、大石さんと今日はほんとに愉快的な日を暮した。ますます二人の間は深められて行く様に思われる。二人の間は実に温かい血の流れの様だ(16日)、ひる食をすましてテニスに行く。久しぶりにテニスしてほんとに面白かった(17日)、授業がすむとすぐさま外へ出て前の林で号令練習をする。声が悪くてほんとにほんとに困る(19日)、大雨だ。部屋の中で先生のお話をきき、午後はやはり先生の英語だ。先生に読まされて困った。夜先生の所へ御用があって参ると、先生が貴女の技を下さない様に自重してください。その内又いい機会を与えますからとこれ丈の事いか程うれしく…(20日)、家より写真来る(21日)、朝起きると写真を出してみる。あ、楽しい家庭が待っている(22日)、今日も風邪をひいて頭が痛い。午後岡山より三人新入生として来る(26日)、今日は二回生の方が富山学校^⑧へ行くのでその留守…お掃除をする。犬には困った(30日)、カワセは今日来た。午後テニスをする。3時間許する(31日)。

2) 5月のまとめ

授業や寮生活については、具体的かつ詳細に記されている。新宿にはよく出かけ(6日・9日・15日・17日・18日)、お茶の水・ニコライ堂や浅草へと外出先も遠く延びてくる(11日)。

①スポーツ活動に関する記事 テニス・2日・17日・31日

②授業については、林先生(9日・12日・14日・21日・26日)の名が多くみられ、号令練習(19日)も特筆できる。

③寮生活に関しては、入浴(3日・5日・10日・19日・25日・30日)について、また吉田園へよく出かけたこと(3日・10日・13日)が分かる。大石さんとの友情を大切にしたいとその深まりも書かれている(1日・3日・4日・10日・11日・13日・16日・30日)。

④塾長の、絹枝のもつ競技力への配慮が窺える(20日)。一方絹枝の校長への尊敬の念は、「教える」を「おすえる」とした日記から窺える(1日・2日・14日・29日)。

なお、絹枝の健康面からは、医者通いが多く記されていて懸念材料となる(6日・8日・9日・12日・

21日・26日・27日・30日)。

(6) 6月

1) 日記

ひる食してから代々木へ行く。槍投げをする(1日)、幸か不幸か今朝は先生に叱られた。なんだったあんなにひがむのかしらん。馬鹿らしい許しだ。あ、ほんとに私はくだらぬ事にただの一分でもついやした事馬鹿らしい。あ、ほんとに修養する許しだ。午後の散歩に心を清める。夕食をして湯に入り槍投げをする(2日)、午後ウドン屋へ行く…七杯、あれこそ私のレコードだ。夜は先生をうらんだ。しかし私等の悪い為だ(4日)^⑨、午後水沢さんと一緒に日本橋に行く。帰りに帽子店に行き帽子を買う(6日)、ひるねをする。三時前より起きて、テニスをしに行く。下高井戸の小学校へ行く(7日)、人夫の為に今日も授業がなかった。室の中で皆なんと唱歌をする。夜は久し振に和歌を作る。やっと五十になる(9日)、戸山学校見学、武蔵野にも五月雨訪れる。緑ますますしげし、かわずの声のますますすむのも心うれしい(10日)、今日は久し振に上天気…武蔵野に五月の月、いよいよすずし、林の上に昇る月の清さ、物干す台に出て月を見る心地よさ(14日)、今日は士官学校の運動会を見学に行く…今夜から大石さんが五室の室長だ。何だかはずかしいやら、一方では一緒にね起きが出来ると思うとうれしい(15日)、午後林先生とテニスコートを作る。でもうれしかった(16日)、午後は国語、ひる寝をしてしまう(17日)、風邪を引いてずい分苦しむ。一日中苦しい日をすごす。しかし帰省の日の近づくを思うと、自然とふるい起る気が盛んだ。午後はあみ物あり(19日)、午前中の授業はずい分早くすんだ。夜は11時まで外出をゆるされた。しかし外へ出なかった。金がないから…水沢さん等と下高井戸迄氷を食べに行く…大石様が親子丼を買って来てくれた…(21日)、午前氷を食べにいく、驚く勿れ四杯も、食事がいやでたまらぬ(22日)、氷のみに行く金がなくて困る(23日)、汗流す苦しみを得て今日も又林流れし風にあたるも 夜半すぎて前の小路を涼しくもハーモニカーの流れ行なり 夏の夜は一寝目さめてゆめ心地火事のかねをばきく心地かな友と友よりてつどいて帰り行く日をばかぞえてよろこびにけり のこる日を幾度ならずゆび折りて

小供心によろこぶ我は 帰省する楽しみしのび今日もまた苦しみのび暮し行なり(24日), 今日も又かくする事をくひつつもふみ行く事をかえすすべなし 友達と多くつどひて暮らしたばかく苦しむと思ふ淋しさ 小雨ふるこの宵近く窓際によりてふる里こふるころなり いたずらな神の仕業にさそわれし友の身をば気づかい見たり 愛すれば愛する程に苦しみの身をこがし行く世の中のさま愛もなき人の世すがはやみなりと人は云ひけりその昔には(25日), 午後は編み物あり騒いで叱られた(26日), 朝早くから外出する. 三越へといそぐ. 三越へ行って母と姉との土産物を買う(29日), カワセ来る二十円, 夜松原小学校へ活動を見に行く(30日)

2) 6月のまとめ

- ①スポーツ活動に関する記事 テニス・7日・16日 槍投・1日・2日
- ②文筆活動に関係した日 和歌・9日・10日・24日・25日
- ③授業については, 国語(17日)と編物(12日・19日・26日)が出てくる. また行事としては戸山学校行(10日)士官学校行(15日)が出てくる.
- ④寮生活関係では入浴(2日・6日・13日)の他に, 氷食が多く出てくる(21日・22日・23日・26日)活動(30日)へ出かけたり, 市中心部-日本橋(6日), 丸ビル(26日), 三越(29日)へ外出するよう行動範囲が広がっている.
- ⑤その他 校長と絹枝の気性の激しかった一面を物語るものとみる(2日). 医者通いは減ってきている(2日・3日・7日・8日).

(7) 7月

1) 日記

七時塾を出発し大井町の日本体育会へ行く. ずい分面白い事, 為になる事を暗示されて十二時半九段の女子部へまわる(2日) 今日はお休みだと思つくと, なつかしい大石さんと盆買いに行く. 暑い暑いほんとに暑くなって来た. 十二時前に帰る(5日), 暑い暑い太陽の中で午前九時より運動会はじまる. 十二時迄運動会をする(6日), 友なやむ心しらねどひたすらになぐさめて見し幼き我は 姉やめば今日もまくらべはなれ得で淋しくねがを見る悲しさよ(7日), 午後大石さんと仲なお

りして吉田園へ行く. 写真を取って五時食店へ… 夜は人形を作って遊ぶ. 大石さんの胸に心ゆく迄眠る(10日), 昨日の夜のことで(14日)

2) 7月のまとめ

12日~13日と16日~31日の日記は欠落しており, また11日と15日は無記入であった. さらに記入内容は学校行事と大石さんに関する事で終わっている.

- ①文筆活動に関係した日 和歌・7日
- ②学校行事関係 日本体育会(大井町)女子部(九段)行き(2日)
- ③大石さん関係(5日・6日・8日・9日・10日) 11日が無記入で12日・13日が用紙欠落, 14日は1行の記入で終わっているのは心に葛藤があったと推測する.

(8) 8月

1) 日記

武ちゃんは帰るし, 亥久ちゃんは居ないし, ほんとに淋しかった. 午後海へ行く. 帰ると母から渡されたそれは少倶⁽¹⁰⁾から来たお礼だった(1日), 午前十一時児島ヨリ君チャン来タル. 急ニニギヤカニナッテ来タ. 私ノウエタ心モナヲッテシマッタ. 一日中樂シイ日ヲスゴス(2日), 今日カラ学校へ練習ニ出カケルベク午前九時家ヲ出タ(4日)⁽⁹⁾, 昨日ノ疲レデ今日ハ午後行ク. 練習ガ苦シクテ困ル(5日), 練習ニ午前中行ク(6日), やすみ(7日), 朝早く起きて水踏ヲスル. 大変クタビレテ倒レソウダ. 昼カラ床ニツク. 足ガヌケソウダ. 苦シイ(10日), 野田の叔母様帰る. 一男も一緒に帰る. 急に弟を取られて淋しくなった(16日), ひる頃から少倶⁽¹¹⁾へ投書する(17日).

2) 8月のまとめ

18日~31日の日記は欠落していて, 夏休みで帰郷中の記録となる. 記入も7日を除きカタカナ書きであったり(2日~11日), 横書き(2日~13日)1日に3~5行の記入, 無記入(8日)の日があったりし, 18日より記入紙欠落となっているのは, 夏休みの開放感によるとみる.

- ①スポーツ活動に関する記事 陸上競技・4日・5日・6日
- ②家業の手伝い(10日)

(9) 9月

1) 日記

今日は目出度床をすてて東天の旭をおがむ…戸山学校の教官三名来られて競技を習っていた…夕方から塾を出て湯に行く。夜は母校の先生に手紙を書いて、久しぶりに机に向った(14日)、今日は初めて運動場に立つ。広くなった運動場ほんとに嬉しくて仕方がない。同期の岡山の方等と面白く遊ぶ(15日)、八時から授業が初まる。現在の日本政界がなんたるかをおすえられて、しばし淋しくなった。その後蓄音機をきかしてもら(16日)、午前中は雨の為に授業は部屋の中だった。女性の肉体美について約二時間話あり(17日)、八時頃から皆んな総出で運動場の穴を埋た。三室が出なくて不愉快だった。午後音楽があった。とても皆んなと同じ声が出ない残念だ。夜はむしあつくてねむりつけなかった。祖母死す!!^(a2)(18日)、文部省より参観に来らる…父より金来る三拾円なり(19日)、二時半より若松町迄本を買いに行く…国家及国民の体育指導五円八十銭(20日)、午前中に競技の練習をす。戸山学校より二名の教官来らる(21日)、戸山学校より教官二人来らる。体操はツナ昇と飛箱の二つであった。ずい分苦しかったが、又痛快だった(23日)、今日はずい分苦しい授業をする。肋木運動にしばって午前をおわる。夜は号令練習をす(24日)。

2) 9月のまとめ

日記は1日~13日、26日~30日と欠落の日が多くなり、25日は白紙・無記入となっている。

- ①スポーツ活動に関する記事 陸上競技・21日
- ②授業関係では、林先生の名が出てくることが多い(15日・17日・19日・22日)。校長の話「日本の政界(16日)、女性の肉体美について(17日)」があった。運動場が広がった(15日・18日)とある。
- ③その他 夏休み後上京した絹枝は13日まで体調不良だったと考えられる。14日・16日と入浴、17日・18日はとり止め、19日・21日・23日と入浴したとあり回復に向ったとみられる。

(10) 10月

1) 日記

今日は晴れの競技会、朝から雨がずい分降って

気をくさらず…幸いにも雨は晴れた女師城についたのは、もう八時半過だった。見事世界記録を作る(5日)、今日は生れて一番嬉しい日だ。先生から握手をいただいた。夜は〇〇さん等と夕食につく。やすらかなねむりにつく(9日)、今日は普通の授業、十時半より土運び・午後・又・土工(10日)、夜は私の為に茶話会開かる。涙の出る位私は感きわまった。友の幸・我幸を祈ってねむりにつく(11日)。

2) 10月のまとめ

1日~3日、6日~7日、12日~31日と日記は欠落の日が増してくる。また4日と8日は無記入となっている。

- ①スポーツ活動に関する記事 陸上競技・5日
- ②授業関係では運動場づくり土運びを行った(10日)、9月の18日にも書かれている。
- ③寮生活関係では、塾長よりお祝いの握手(9日)、寮生によるお祝いの茶話会(11日)があり、「人見絹枝日記」の最高潮場面(11月7日)へのイントロダクションをなしている。

(11) 11月

1) 日記

今日は最初の神宮競技会の出場日である。朝元気よく出る。競技場に着いたが決して輪快ではなかった。世間の人の冷たさに、それはほんとに冷たいものだった。夜帰って早くねる。しかし私の記録の悪い為ねる事は出来なかった(6日)、午前中は今日とは力んでいるべき日だ。朝早く起きてから槍投・砲丸投・ホ・ス・ジャンプ等を練習す。体が大変よい。午前十時出塾す。場について飛んで見た。一〇米五〇位出る。大いに安心する。午後二時いよいよする。どうしても出来ない。つまらない。ほんとに私はすべて神にまかして飛んだ。神は私を助け給うた。日本選手権・世界選手権を取る。一〇米三八(7日)、今日は昨日の疲れですっかり体がつかれて動かない。ほんとにほんとに淋しい心もなにも起らない。今日はほんとにほんとに幸な幸な日であった。朝早く塾長は友をやってあらゆる新聞を買って母校と家へと送るべく…ああ先生の御恩何と私は御礼申すべきか。先生から金のきしょうをいただき、夕方明治神宮へ塾生全部旗行列をす。何と感謝すべきか、私は言葉な

かった。夕食は赤飯、それから五室集って祝会、ほんとに私は心からすべてのものに感謝の言葉を放つ（8日）、今日は旗行列をす。九時半日日新聞⁽¹³⁾を引上げて戸山学校に行く（16日）。

2) 11月のまとめ

1日～5日と10日～15日の日記は欠落し、9日と17日は無記入となっている。塾長トクヨは授業を大体11月までとし、12月には郷里に帰って親孝行をすること、又母校には必らず顔を出すよう訓話していた。また、修業年限が1年（4月に入塾し、翌3月に卒業）の体操塾では、就職準備等も加わったか『人見絹枝日記』は11月16日で終わっている。

- ①スポーツ活動に関する記事 陸上競技・6日・7日
②寮生活及び塾長との記録は8日と16日に集約されている。

V. 日記の考察

以上は記入月日を追い『人見絹枝日記』を調べてきたが、これを研究目的に沿い、項目別に整理してみることとした。なお日記記入は1月10日～15日が最高潮。全行にわたり記入され、7月に入ると記入の減少は著しく余白が目立つ。

1. スポーツ活動に関して

1) テニスは5月17日と31日に行った 2) 陸上競技は岡山へ帰省中の8月4日・5日・6日と講習会に参加、上京後の9月21日に練習を行い、10月5日岡山市での競技会（第3回岡山県女子体育大会）出場、11月6日・7日明治神宮競技場での競技会（全日本選手権）に出場した。絹枝は夏休み後にテニスと訣別し、本格的な陸上競技者への道を進むことになる。

2. 執筆活動に関して

短歌作成については、高女時代の1月19日と2月9日に短歌会に参加したが、その作品は不明である。入塾後に当日記から知り得た短歌は計14首であった。他に6月9日は「久しぶりに和歌を作る。やっと五十になる」と書いているが詳細は不明である。6月24日・25日と2頁にわたる12首の短歌は、塾生としての近況を歌ったものである。7月7日は日記文に続けて2首歌っている。因みに1920年代の女学生は殆んどが少女雑誌、婦人雑誌を読んでおり、中でも少女雑誌は女学

生の必需品といえる程となっていた。1月8日、8月1日、8月17日の日記から絹枝が「文学少女」であり、「投書少女」であったことを証している。

3. 家庭生活に関して

1) 岡山高女時代 正月の平和な家族の姿や親戚の人の往来について記している。7日までの休みは行動的な絹枝にとり、退屈を覚えさせる日もあった。次に3月22日に通知書もらった時は父に叱られたが、翌日の卒業式に父が出席してくれたことに感謝の心を走らせている。この間に絹枝は3月9日は「二階堂より許可書来る。天にも上がる心地して」と書いている。

2) 二階堂体操塾時代 青々と輝くこの月は故郷の浜も照らしおる（4月19日）、家より写真来る（5月21日）、カワセ来る二十円（6月30日）、東海道線不通とかのうわさあり。家へ見舞をだす（9月17日）と絹枝の親しいの心が変わりはなかった。夏休み中にも、朝早く起きて水踏みをする。大変くたびれて倒れそうだ（8月9日）と気を遣っている。

4. 学生生活に関して

1) 岡山高女時代 絹枝にとって最終学年になる当日記の多くは、授業について書かれて、各教科担当教師への感想が多く、また学友に関しては特に亥久ちゃんについて書いた日が多い。4月に入っても7日に彼女の家を訪れている。

因みに1920年代には、女学生同志のごく親密な関係を「エス」Sisterhoodと呼ぶことがあった。手紙の交換や一緒に登下校をしたり、お互いの家を訪問し、学校や家庭のことなどさまざまな問題を話し合い、一緒に買物に出かける。勉強も教えたりしていた。このような関係は女学生の間では広く見られるものであった。

2) 二階堂体操塾時代 ①授業について 4月14日が入塾の日、15日に9時から2期生の今城さんと日比谷公園・三越・明治神宮へ出かけた。16日に塾長の話、夕方より運動服を裁ってもらい、17・18日に身体検査。18日は体操服に身をかため、すぐ昨日の練習をすると入学時の慌しい生活を記している。また林先生の授業がよく出てくること、号令練習があったこと、編物があったことなどが特記できる。さらに夏休み前に、日本体育会へ見学に出かけたこと、9月には体操のツナ昇りと飛箱は苦しかったが痛快だったと記していることも特記できる。なお人見の受けた授業風景は、『二階

堂学園七十年』¹⁴⁾44-49頁に詳しい。②寮生活について 入塾の日に絹枝は「室は大勢にてにぎやかだ。そんな気がねする方なき事」とし、15日には先述した通り上級生と外出をし、16日に部屋換えがあったが比較的容易に寮生活にうちとけている。「四月日記の補遺」では「塾生活の第一歩を十三日以来はじめた。国より送りし金の費い方もずい分考えた。父母のこともずい分考えた。塾の様子もずい分わかってきた。塾生活ほんとにやさしいものだった。」と書いている。入浴については4月の記録によく出てくる。6月になると氷食べに出掛けた記事が多くなり、6月14日にウドンの食べすぎで塾長に叱られたことが特筆できる。さらに11月神宮競技会後の同室生による祝会と全寮生による旗行列は、寮生活での最高潮を思わせる。つぎに学友に関して、最も親近感をもった人は、大石さんであった。4月25日の日記に初出し、「四月日記の補遺」には、「今城さんより大石さんにうつりしこと、ずい分苦しいこともあった。私は多情だ。悲観した」と記し、6月15日同室に移ってきて室長になったことを、恥ずかしいやら嬉しいやらと吐露している。なお大石さんについては7月10日以降の記録はなく、日記は夏休み後に記入が減少し、学友関係についての記入は皆無となっている。

5. 絹枝の塾長観について

入塾の日に先生は気持ちよく男らしいと評し、4月29日は先生を口もうまいが、その頭の明瞭なのに驚いたと感嘆の語を吐く。5月20日に貴女の技を下さないように自重してください。その内またいい機会を与えますからと話されたのを、これ丈の事いか程うれしくそこを辞したと感謝の言葉が書かれている。これは6月15・16日に大阪築港グランドで行われた「第1回日本女子オリムピック大会」への参加見送りを念頭においた配慮とみる。秋を迎えて10月9日、今日は生れて一番嬉しい日だ。先生から握手をいただいた。塾生活を通し絹枝にとっては至福の日、最感激の一日だったと考える。

VI. まとめ

人見絹枝日記は1月1日に始まり、11月16日で終わっている。この間にも欠落の頁があり、また4月18日から22日はカタカナで書いている等は、その理由がさだかでない。また記入行数・字数は7月から急減し

ている。本日記から絹枝について、二階堂体操塾での寮生活や絹枝の人間性・性格等を浮彫りにすることが出来た。

1. 絹枝の寮生活について 1) 高女時代からのテニスと決別し、陸上競技への道を本格的にとり組んだ(8月4日～6日)・(11月7日)、2) 短歌づくりは上京後も続いている(6月24・25日)(7月7日)、3) 寮生活には容易に融和し得た(4月日記の補遺)、4) 塾長トクヨについては、尊敬と感謝の念を持ち続けた(5月20日)(10月9日)。

2. 絹枝の人間性・性格について 1) 学友については冷静な観察と判断の下に大事にし(4月13日)、なお特別の人を熱愛した…大石さん(4月25日・5月～7月)、2) 几帳面な性格であった 塾長の方言—おすえる(教える)—が随所に使用されている、3) 負けず嫌いであった 読後感として「男にかつのはいつ養われるのだろう…男子に絶対服従なんてそんなことはないはずだ。男にかていかにしても男にかて、強く生きよ。愛する女等(1月13日)、対S教師(1月17日)、対塾長(6月2日)、4) 感性の鋭い人間であった。岡山と違った東京の長雨を嘆き(4月26日)、武蔵野の自然を謳歌している(6月14日)など。

絹枝の生活適応力はすぐれており、進学・上京その後の寮生活への不安感も1ヶ月で消失している。人見絹枝日記は岡山高女・二階堂体操塾を通し、授業について詳しく書かれ、学友については高女時代の亥久ちゃん(1月～4月)、体操塾時代に大石さんの名前がよく出てくるのも特徴的である。絹枝は新聞雑誌への投書ぐせがあることを自認しており(8月1日・17日)、日記に次のような誤字も散見された。①期待(1月13日)②写真を撮る(1月26日・2月11日・3月15日・4月6日・7月10日)③運動服を裁って(4月16日)④明瞭(4月29日)⑤戸山学校(5月30日)⑥愉快(11月6日)

謝 辞

本研究を進めるにあたり、日本女子体育大学名誉教授穴水恒雄、同図書館員福岡澄恵の二氏に協力を得たこと並びに人見鈴子氏の史料提供に対し心から感謝したい。

注

(1) エリザベート・シェーン 窪田十一訳(1923)人肉の市、

- 講談社，東京 原題は「20世紀の恥辱 白き女奴隷」
- (2) 倉田百三 (1917) 出家とその弟子，岩波書店，東京
 - (3) 昭和天皇と良子女王との結婚日
 - (4) 第2期生(大正12年入塾)の今城沖子と考えられる。岡山県出身は7人が2期生にいた。
 - (5) 林 良斉 海軍軍医大尉・担当科目は解剖・体育理論・生理衛生・体育史・救急療法
 - (6) 吉田園 下高井戸にあり。田舎料理で香水風呂が売り物で、庭に高低があり、湯殿など随分遠方だった(出口敬亭)
 - (7) 活動写真の略，映画の旧称
 - (8) 1974年設立された陸軍戸山学校のこと，体育指導のための教育や軍楽隊の訓練にあたった。
 - (9) スパイクの跡 26頁参照
 - (10) 少女倶楽部 1923年創刊 大日本雄辯会，講談社
 - (11) 10)と同じ
 - (12) スパイクの跡 31頁参照
 - (13) 東京日日新聞と考えられる。
 - (14) 70年史編集委員会(1992)二階堂学園七十年，不味堂出版，東京

参考文献

- 出口敬亭(1940)，人見さんの話其の他，女子と子供の體育 5(8)：53-55
- 稲垣恭子(2007)，女学校と女学生，中央公論社，東京
- 三澤光男(2001)，競技者人見絹枝の短歌歴，日本女子体育大学紀要31：13-20
- 三澤光男(2003)，人見絹枝・スポーツ活動の調査と年譜作成，スポーツ史研究16：55-62
- 三澤光男(2005)，はやての女性ランナー－人見絹枝讃歌－ 不味堂出版，東京
- 二階堂清寿・戸倉ハル・二階堂真寿(1957)，二階堂トクヨ 伝 不味堂出版，東京
- 西村絢子(1983)，体育に生涯をかけた女性－二階堂とくよ－ 杏林書院，東京

(平成19年9月7日受付)
(平成19年11月15日受理)